



第 72 回日本医学検査学会 in GUNMA

臨床検査技師“愛”

～この素晴らしい仲間と未来へ～



第 72 回日本医学検査学会

学会長 井田 伸一

(公益社団法人 前橋市医師会)

第 72 回日本医学検査学会を一般社団法人群馬県臨床検査技師会の担当で開催させていただくにあたり、担当県を代表してご挨拶申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大が始まってから 3 年が経過しました。中国武漢で非定型肺炎の集団発生が起こったという情報が入ってきたときには、これほどの感染拡大を予測することはできませんでした。この 3 年の間、我々臨床検査技師は検体採取から PCR 検査、新たな業務となったワクチン接種など、さまざまな形で新型コロナウイルス感染症対策に対応し、社会にも大きな役割を担ってきました。完全な収束とはなっていませんが、ようやく平常を取り戻しつつあるこの時期に今学会を開催できますことを感謝したいと思います。

本学会のメインテーマは「臨床検査技師“愛”」サブテーマとして～この素晴らしい仲間と未来へ～といたしました。ここ数年臨床検査技師を取り巻く環境は劇的に変わってきており、現在も医師の働き方改革に伴う臨床検査技師へのタスク・シフト/シェアにより業務範囲も拡大しています。臨床検査技師は能力が高い人が多く意識が高い人が多いと常に思っております。私は、この素晴らしい臨床検査技師の認知度、そして社会的地位の向上を目標のひとつとして掲げておりますが、この学会にもその思いを込めてこのテーマにさせていただきました。

開催地である高崎市は古くから交通の要衝で、関越自動車道と北関東自動車道の分岐点、上越新幹線と北陸新幹線の分岐点になるなど、全国有数の交通拠点都市であり、新幹線の停車する高崎駅は群馬県の交通の中心地であり、東京からのアクセスも良い場所です。

学会会場は、群馬初のコンベンションセンターである「G メッセ群馬」及び 2,000 人が収容できる大劇場を持つ「高崎芸術劇場」を使用いたします。特に「G メッセ群馬」は、令和 3 年 6 月から翌年 4 月末まで、新型コロナワクチンの大規模接種会場となっていた場所であり、群臨技会員延べ 1,414 人が 12 万人を超える県民へワクチン接種した思い入れの強い場所であり、このタイミングでこの場所で群馬県初の全国学会を開催することに運命を感じます。

学会内容は、特別企画として公開企画では、群馬交響楽団のフルオーケストラの演奏、群馬県出身のハンカチ王子こと斎藤佑樹氏によるご講演、文化講演では、群馬県は古墳や埴輪の出土が多く、古代の歴史があることから、群馬県立歴史博物館特別館長の右島和夫先生にご講演いただき、そして現在、群馬県山本知事が旗振り役となって温泉文化のユネスコ無形文化遺産登録を 17 道県知事会が推進しておりますが、今学会でも一般社団法人群馬県温泉協会常務理事の酒井幸子先生に「群馬県の温泉を科学する」をご講演いただきます。そのほかにも日臨技企画を 5 企画(国際 2 含む)、72JAMT 企画として日臨技 WG からの在宅医療、認知症、医療技術部門管理者資格制度を含めシンポジウム 7 企画、学術部門のシンポジウムやパネルディスカッションを 14 企画、学術部門からは教育講演も 9 企画、ハンズオンセミナーでは生検検査部門から 4 企画を用意いたしました。協賛企業様からはランチョンセミナーを 19 企画、スイーツセミナー 3 企画、また、学会長企画としてワクチン接種に関する演題を群馬県外からも参加していただき 10 演題を発表していただきます。そしていつも群臨技を支援してくださり、ワクチン接種を行う時には実技研修会を監修していただいた群馬大学の村上正巳先生には「我が国の臨床検査の課題と展望～日本臨床検査振興協議会の取組み～」についてご講演いただきます。そしてポストコロナ時代に相応しく、展示ブースには多くの企業様からご出展をいただきました。学会の趣旨にご賛同をいただきました企業様に厚く御礼申し上げます。

5 月 8 日からは、猛威を振っていた新型コロナウイルス感染症も感染法上の扱いが 5 類に移行いたします。未曾有の事態を乗り越えつつある今、全国から多くの会員の皆様には是非群馬にお越しいただきますよう心からお願い申し上げます。